



3対2 ボール運びゲーム

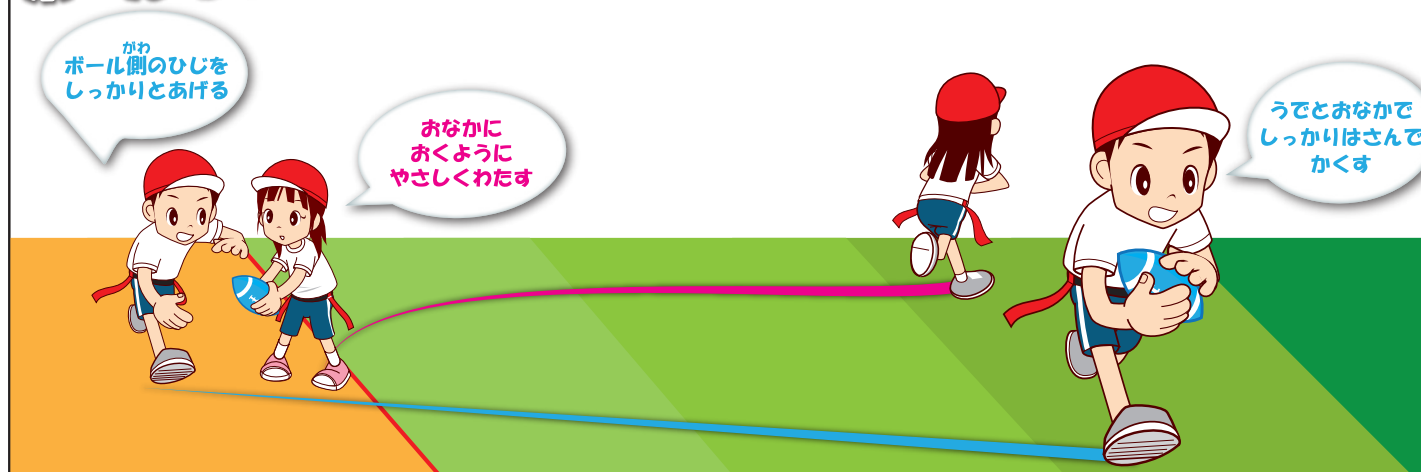
ボールを手渡しするふりをして、相手をだます「フェイク」を学ばせたい時に、適したゲームです。



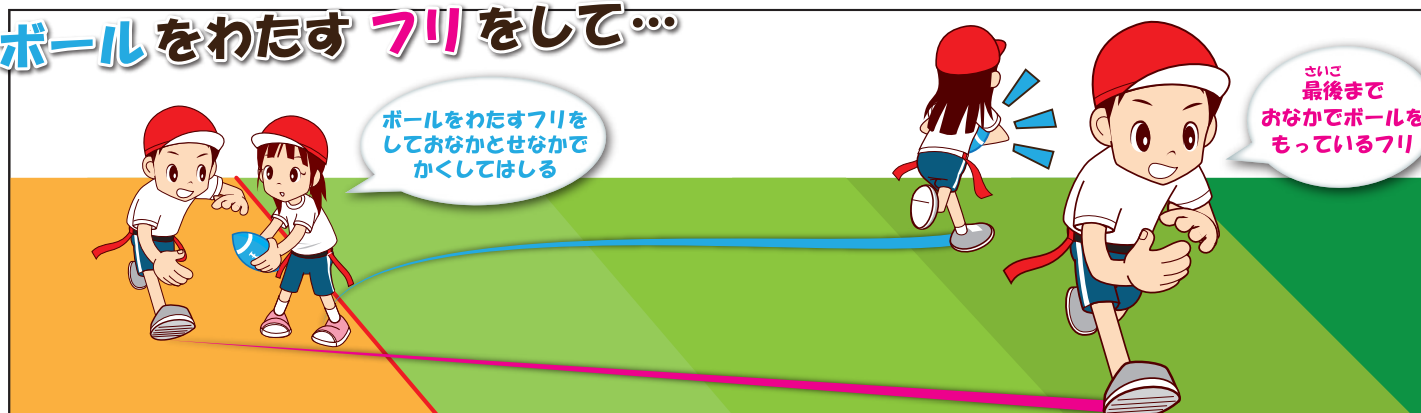
学べる動き

だれが **ボール** をもっているか
わからないようにしましょう！

ボール をわたして…



ボール をわたす **フリ** をして…



ポイント（もらうふり）

- ・タイミングをしっかりと合わせる
- ・ボールをお腹で抱えるようにして、相手から見えないようにする
- ・上半身をひねって相手に背中を向けるように走り、背中を使ってボールを持っているか見えないようにする

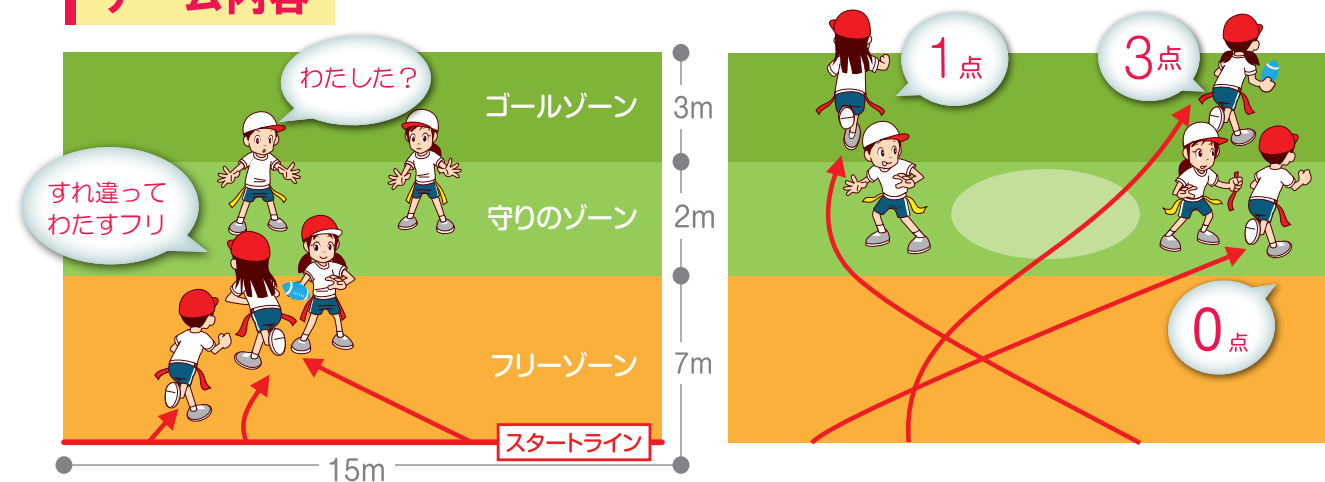
ポイント（わたすふり）

- ・タイミングをしっかりと合わせる
- ・ボールをわたすふりをする時、後ろを向いて背中で見えないようにする
- ・ボールをお腹で抱えて、相手から見えないようにする
- ・上半身をひねって相手に背中を向けるように走り、背中を使ってボールを持っているか見えないようにする

ポイント（わたした時）

- ・ボールをわたした後も、相手をだますために、ボールを持っているふりをする

ゲーム内容



スタートラインからスタートし、フリーゾーン内でボール操作を工夫しながら、守りにフラッグを取られないように全員がゴールゾーンを目指します。ボールを持った人がゴールゾーンに入れば3点、ボールを持たない人は1点です。〔最高で5点（3点+1点+1点）〕

フリーゾーン内では、手渡しと後ろパスのみができます。守りの人は守りゾーンから出ることはできません。守りの人は誰のフラッグを取っても構いませんが、狙いを工夫して得点を阻止します。1回戦につき3回攻撃したら、攻守交替します。

約束事 1

いつ、どこで、だれが渡す・渡すふりをするか事前に「作戦」を立てて確認する。

約束事 2

ボールを見えないようにして走る。

約束事 3

仲間のフェイクの動きを見て、うまくだまさせているかアドバイスする。

言葉かけの例

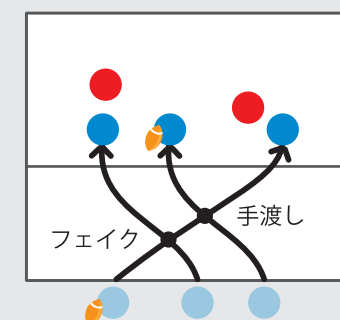
「きみがおとりになったから、あの子が活躍できたよ」
「上手く走って得点したね。でもフェイクした〇〇さんの持っているふりも上手だったよ」

攻撃を開始する前の「作戦の確認」では、1人ひとりの役割行動をしっかりと確認させます。

有効な作戦パターンを取り上げて、子どもたちのアイデアを膨らませることも大切です。

作戦がうまくいかなかったチームには積極的にアドバイスをし、課題を解決させます。

ホワイトボードでの説明例



ボールを持った人が、右に移動して、2人の味方と交差して、手渡ししたり、フェイクしたりする。

コートの作り方の例



※ ぶつからないように、それぞれ外側に攻めるようにする。

